

親しく正しく和かに

当山先々代三吉日照上人の提唱による
当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御閑士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

寺 楽 寿

No.24

春彼岸号
平成 28 年 3 月 1 日 発行

本覺山 妙壽寺 〈法華宗（本門流）〉

〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
ホームページ http://myojyujj.or.jp



当山猿江別院 順調に工事進捗中

昨秋に再開されました猿江別院工事は、2月15日に3階部分のコンクリート打設が行われ、年末竣工に向けて工事が順調に進捗しております。



無縁社会と寺縁その21

さるお檀家の三・七日忌のお参りのあと、そのご家族より「閻魔様が故人から話を聞くと
の事です」と質問がありました。「仏教ではご逝去の後、第七回目の七・七日忌（四十九
日忌）までの七日毎に冥官（代官）は異なり、第五の三十五日忌が閻魔大王です」とお答
えいたしました。

かつて、ある動物写真家がアフリカで定点写真として野生動物の遺体を撮った時、おおよそ
三十五日位でその肉体は遺骨となることで、このことは肉体と靈魂が離脱をするまでの時間と考
えられるとのことでした。また、その時期は故人が最も苦しいと考えられています。このお檀家
の亡き夫、亡き父に寄せる篤い思いを受け止めた瞬間でありました。従って、その魂が靈界に昇
華し始めるのが三十五日、そして四十九日忌に靈界の第一歩を歩むことが出来る。その大事な
時間の流れであると考えられるのであります。

ご家族にとって、かけがいのない故人、その尊い人生をこの四十九日の間に辿る大切な期間であるわけ
です。

今、時代はこの人生の終焉をコンパクトに簡素化する方向にあります。そのような中にあって何千年前
から続いて来た仏教の慣わしの、この大きな意義をもう一度考え直す時代に來ているように思っ
たのであります。

鴉 鵲

寺日記

てらにつき

●1月1日 元旦國禱会法要

●1月2日 桑港日蓮教会役員会書記宮崎さおり
女史來山参拝

●1月12日 後七日御修法のお見舞い

東京ブディストクラブ前会長根岸榮宏先生が京都・東寺（教王護国寺）において、後七日御修法を御修行されており、当住上人は同クラブメンバーと共に御見舞いに参上いたしました。

●1月15日 全日本仏教会60周年記念事業正副部長部会長会議

●1月17日 当山役員婦人会総会・新年会

午後2時より年頭会法要（左写真）が行われ、3時より鍋島客殿2階において、総代、世話人役員、婦人会総会が開催され、一両年の報告、予定が協議されました。引き続き、大阪妙道寺高橋顕昭上人をお招きして新年会が開かれ、恒例の福引きなどが行われました。



●1月22日 隆門懇話会

会場：京都本門仏立宗大本山有清寺・北野「有職料理 萬亀楼」

●1月25日 東京教区新年会

会場：銀座アスターお茶の水賓館

●1月26日 全日本仏教教会新年会

会場：ザ・プリンスパークタワー東京

●1月27日 法華学園理事會

会場：人形町宗務院

●1月29日 当山世話人役員 小林俊介氏逝去

当山世話人にご就任いただきました小林俊介氏（東觀院智慶日俊居士 67歳）が急逝されました。2月3、4日、町屋葬祭場における葬儀には当山上人御導師のもと、副導師には妙法寺佐々木明乗上人、立正院矢吹慈英上人をお迎えし、会葬者500名余が参列されました。ご冥福をお祈りいたします。



●1月30日 東京ブディストクラブ新年家族會

●2月3日 当山節分会

恒例の当山節分会が正隆会併催で行われ、豆まきでは、当住上人と西澤国光職員が鬼役を務めました。



つつじ観賞會

～メモリアル西澤～

当山では、鍋島客殿と東祥苑（第二庫裏）前庭を作庭いただいた、元檀家世話人・故西澤義光氏の善行を記念して、昨年より「メモリアル西澤 つつじ観賞會」を開催しております。今年も、下記により観賞會を開催いたします。

日時：4月23日（土）・24日（日）10：00-16：00
場所：鍋島客殿2階大広間、1階2室

本堂左位牌壇整理 についてのお知らせ

この度当山では、本堂左位牌壇の調査整理を行うことに致しました。昭和57年に旧本堂から新本堂への遷座以来34年が経過し、今後の継承者と祀り方について検討致します。これにつきまして、ご要望等がありましたら当山受付までご一報いただければと存じます。

護法會の御加入について

日頃は護法會会費の納入につきまして、ご理解ご協力いただき有難うお礼申し上げます。近年、名簿等の整理を進め未加入、未納の方々にもご理解いただき、護法會にご協力いただいております。今後は継承時（名義変更時）に改めてご説明をし、ご加入の促進に努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

宗務院 DIARY

1/8 ▶ 本山林内局連絡會議・内局會議・ご用始め

1/20 ▶ 第70次臨時宗會 1/26 ▶ 法華学園理事會 2/8 ▶ 紛議懲戒審査會

予告

正隆會課外活動
日隆聖人「誕生寺」参拝・金沢観光旅行
平成28年4月25日（月）～4月26日（火）

下記日程により日隆聖人「誕生寺」金沢観光旅行を企画いたしました。
奮ってご参加下さい。（別紙参照）

25日 東京駅発（7:52）→ 新高岡駅 → 法華宗再興唱導師日隆聖人生誕の地「誕生寺」（参拝・昼食）→ 金沢・忍野寺（妙立寺）→ 法華宗承証寺・本因寺（参拝）→ 山代温泉・ゆのくに天祥（泊）

26日 ゆのくに天祥 9:00 発 → 九谷満月 → 金沢・長町武家屋敷跡 → 金沢城公園・兼六園 → 金沢料理「兼見御亭」（昼食）→ ひがし茶屋街 → 近江町市場 → 自由散策 → 金沢駅発（17:52）→ 東京駅着（20:24）

妙壽寺 2016 春夏スケジュール

3月20日㊦ 春彼岸中日
5月2日㊦ 猿江稲荷大祭
7月16日㊦ 孟蘭盆会施餓鬼法要



正隆會

【SHORYU-kai】
午後2時開催

月例講
ご案内

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆會を開催しております。仏教や法華經についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

3月10日（木）東京大空襲慰霊供養 両国復興記念館 参拝（13:30集合）
4月25日（月）・26日（火）移動月例講 日隆聖人「誕生寺」参拝・金沢観光旅行会
5月14日（土）勉強会「法華經の略要品」拝読 -2-
6月11日（土）写経会
7月9日（土）講師勉強会（興隆学林教授 平島盛龍先生）
8月 休講
9月10日（土）勉強会「法華經の略要品」拝読 -3-
10月8日（土）課外活動・秋のウォーク（詳細未定）
11月12日（土）勉強会「法華經の略要品」拝読 -4-

本堂落慶30周年記念インタビュー

早苗靖夫氏

（十二代早苗平兵衛 早苗質店主人・
当山檀家総代・本堂再建設委員会計）

前編

聞き手 三吉廣明上人

（平成28年1月7日

於・杉並区梅里

早苗家

住職 今回は当山とご縁深き早苗さんよりお話を伺います。早苗さん、よろしくお願いたします。今日はちょうど七草ですが、早苗家は毎年1月2日の午前中にご家族でお寺にお参りいただくのが恒例になっていますね。

早苗氏（以下、敬称略） ちょうど母の命日ですから。

住職 本堂から墓所の最初の参道のところに早苗家の墓所があり、大変由緒正しいところにあるということになります。早苗さんには、今は妙壽寺には8名のご総代とともに妙壽寺の運営などに携わっていただいております。本年中には妙壽寺があった深川猿江に妙壽寺別院が再建されますが、これにもお力添えをいただいているところです。

●早苗家400年、妙壽寺との深いつながり

住職 早苗さんにお伺いしたいのは、早苗家と妙壽寺の最初のご縁は、ご先祖様が「平兵衛」というお名前を襲名して美濃屋平兵衛さんということになりますね。

早苗 早苗家の初代が亡くなりましたのが元禄15年7月2日ですから、初代は（同年の）12月14日の赤穂浪士の討ち入りはわからないわけですが、初代のおばあさんに当たる人は

知っている筈です。同じ江戸で日本橋ですから、想像しても本当に大変なことだったと思います。

住職 早苗家は「美濃屋」という屋号ですが、言い伝えはありますか。美濃の国ということですから今の岐阜県ですね。例えばお檀家さんの山本さんは、深川木場のお檀家で山形屋ですね。植田さんは伊豆屋だと思っています。今でも深川から運んできた古い墓石にはまだ結構、屋号が残っています。

早苗 はい。家を建て替えたり、隠居所を建てたりした時の棟札が残っているなど、美濃屋の屋号が町名と共に記してあります。岐阜県の地図や郵便番号帳で見ますと、早苗という地名があります。それを調べてみようと思いがながら、まだそこまでは……。いつも年の暮れになるとそれを思います。

住職 大本山光長寺様が末寺住職の履歴を歴代譜として出版され、これが早苗さんも一緒にいただいた昨年5月の大本山光長寺の五五〇遠忌の記念事業として行われました。そのときに江戸期のお上人は関東と関西の行き来があり、その頃は実にいろいろな人たちが東西で動いていたということがよくわかりました。ですから早苗家が元禄時代に岐阜から江戸へ出てみえたことも想像にかたくないと思います。

今、日本橋が再開発をしています。日本橋の方々は銀座に負けないと。

早苗 決して負けていないですよ。カラーは違うと思いますが。

住職 とても頑張っておられますが、その当時の言い伝えなどはございますか。それと日本橋は何町でしたか。

早苗 新材木町、葺屋町です。古い地図で見ますと、葺屋町が材木町の隣町です。材木町と葺屋町に住んでいてうちの八代目さんが質屋を営んでおります。初代は何をしていたということははっきりわからないです。お米屋



400年続く早苗家に残る数々の棟札の一部。
左前：文永11年(1274)、右：寛政5年(1793)、左後：天保5年(1834)



三吉廣明住職

と両替商ではないかということ聞いたことがあります。一時期、材木屋もやっていたようなことも。それは定かではありません。

住職 拝見している早苗家の歴代譜は鎌倉時代、文永年間のことを書いてありますが……

早苗 今も棟札が残っていますね。

住職 棟札の板曼荼羅もあるんですね。

早苗 はい。一番古いのは、まだ日蓮聖人が存命でいらしたころの物です。酒匂村と入っております。それがどうして私どもにあるかわかりません。

住職 文永年間ですから。日本橋の話もそうですが、前にお寺の信報（寺報）に棟札の写真載せていただいた、つまり妙壽寺草創時の、開山の日崇上人のお曼荼羅。そして江戸中期から私までの二十六代の中で三人のお上人が京都妙蓮寺の貫首に就かれています

が、その二人目の日文上人のご本尊です。別の歴代のご本尊があるということは、いかにお寺との結びつきがあったかということがよくわかります。その当時の早苗家の初代さん以降の方々と、お寺との結びつきはやはり強かったのだということを変えて思いました。

早苗 初代は妙壽寺が創建されたすぐ後ではないかと思っています。

住職 寛永年間ですから。

早苗 相当、お寺との行き来があったと思いますね。

住職 なおかつ文永年間の棟札があるということは、法華宗や法華経など、当時の日蓮法華関係のお上人とのいろいろなつながりがあったことは十分に考えられます。その辺はこれからの研究課題だと思います。

●日本橋時代の早苗質店

住職 当時の日本橋のことで伝え聞いておられることはありますか。

早苗 質物や畳紙や、紐です。質屋で畳紙に衣類などをくるんで紐をかけますが、その紐を作るのが各自の仕事で、番頭さん達で「紙撚り」をよってどんな紐をつなげていくわけですね。それは一尋（一ひろ）6尺すなわち約1・816メートル）と半分ぐらいがちょうど質物を包んだ上に紐をかけるのにい長さで、そのように切った物が家にもあり

ます。叔父（御尊父舎弟、阿佐ヶ谷の早苗家）の家にもありました。どんなつながってバレーボールぐらいの大きさになっているのを見たことがありますね。夏の暇な時には畳紙を作ります。古い和紙をはぎ合わせて作るそれが夏の仕事です。

住職 あの当時の江戸の方々の古記録などで、何屋何兵衛という町並みが残っている地図があるともしろいでしょうね。江戸と言えは火事ですから、火事で様子が変わってしまうところもあるでしょうし。

早苗 火事は何遍もあったようですね。よく隠居所などの棟木が残っていたと思います。

住職 考えると、ご本尊もよく残っていたと思います。

早苗 明治のころに先祖が根津に引越しまして、関東大震災（大正12年9月1日11時58分）のときは根津におりましたが、日本橋にいたら今の私たちはいなかったと思います。私の祖母が震災を体験して実際を見ていたから言えるでしょうけれども、私が小さいときから何十遍となく聞かされました。質倉と家の上が一尺離れていたのが、またもにくっついたと。

住職 それぐらい揺れたということですね。

早苗 一尺ということですから、話半分にしても五寸ぐらいはあり得るかもしれません。

住職 5年前の東日本大震災の高層ビルの揺れ方を見ているとあり得ますね。

早苗 それが根津の家で、ちょうどお昼時ですき焼きを食べていたようです。月末、月初めに店の人皆で肉を食べる習慣があつて、暑さですっかり腐ってしまったそうです。家に入れないので市電が通っているところにみんな座っていたようです。それを祖母が実際に見ていたと……。

住職 何年ごろに越されましたか。

早苗 明治24年ではないかと思っています。

住職 日本橋からどうして根津を選ばれたのでしょうか。

早苗 本郷の今の東大のところから下りた言問通りのあたりは、郭があつたそうです。どぶ川のようなものが流れていて、今でも愛染橋などの町名が残っていますね。それが整理されて、その一帯が売りに出たのではないで



早苗靖夫氏

しょうか。それで日本橋から根津に越したのだと思います。

住職 根津・本郷というと、私はどうしても学問の町、文人墨客、画家の方々がたくさん住んでいたというイメージですが。

早苗 森鴎外が『舞姫』などを執筆した鴎外の旧居「観潮楼」の跡地で、今は文京区立森鴎外記念館として残っていますね。

住職 妙壽寺のお檀家であつた彫刻家の吉田芳明、吉田芳夫先生も本郷です。本郷は上野に近く芸大も近いですからね。

早苗 樋口一葉もこのところテレビによく出てきますけれども、本郷菊坂下に一葉が通つた伊勢屋質店があります。大きな店構えですが、当時のままで一般公開しています。

住職 江戸末期・明治・大正とくるわけですが、ご親戚の小松（早苗うた御母堂の生家）さんも日本橋ですね。

早苗 小網町ですから、すぐそばです。

住職 早苗さんのお母様は小松家から来られたのです。小松家のお仕事は……。

早苗 紙問屋でした。小松の家も随分古く、妙壽寺の古い檀家です。本当に昔からの縁で、早苗家の過去帳などに小松家のご戒名が随分載っています。

●関東大震災被災から復興へ

住職 美濃屋早苗家が日本橋から根津に來られて、関東大震災に遭われたときは、建物は大丈夫でしたか。

早苗 大丈夫でした。

住職 そのころは早苗さんのお祖父様の代ですか。

早苗 もちろん父（十一代目）もいましたけれども、まだ祖父（十代目）もいたはずですが。

住職 今の根津ですと言問通りのそばですか。

早苗 言問通り十字路の角でした。浅草の方面からおりてきて、角の右です（現在の根津駅）。

住職 今、赤札堂がありますね。

早苗 その対角線上の角、あの一角が早苗家の土地でした。道路に面した、市電が通っていたところに質店があり、その前の何軒かは貸していましたね。後ろの根津権現の方面に行き通り、横町まで早苗家の地所でした。

住職 昔、早苗さんのお祖父様あたりは、お寺が深川にあったころは、あの辺から上野桜木から言問通りを真っ直ぐ行ったのか、深川までどのように辿ったのでしょうか。

加藤やくさんのお話によると、神田須田町から船で隅田川に出て、隅田川から小名木川にどんどん入り、途中で上陸してあとは人力車で行ったという話を聞いて、すごいなと思いました。恐らくその当時も当然、大正・昭和時代は、日照上人は本郷の早苗家にはよくお邪魔していたのだと思います。

早苗 ちよくちよくお見えになっていましたね。私の父は日照上人を大変尊敬しておりましたから、いろいろなお話を伺ったり、お会いすることが楽しみだったようです。今、お話に出た加藤やくさんともお寺でもよくお目にかかっておりましたから、日照上人のお話がよく出ていたことも私はよく知っております。

住職 お父様の美濃屋平兵衛さんは、今の根津のお店を継がれたのは何年ごろですか。多分、ご修業に行かれていましたね。

早苗 大正時代です。高橋駒次郎さんという方が旦那さんになるわけですが、そこのお宅とも後に随分縁があつて、父は明治から大正にかけて15年ぐらい番頭としてお務めしていたようです。

高橋家とはご縁がいろいろあり、戦争あり、前記の家は終戦の年の5月に強制疎開で壊され、大変な時代でした。お檀家の田邊家とご縁を結んで下さったのも日照上人でした。杉並に移転したのは終戦の年です。

住職 それはやはり日照上人とお父様とのつながりが深かったのでしょうか。

早苗 本当にありがたかつたと思います。

住職 私は早苗さんのお父様というと、どうしても和服を着ておられたイメージが強くて……。

早苗 和服が多かつたですね。お寺に行くときは必ずと言っていいぐらい和服で出かけていました。ですから和服はたくさん残っております。

昭和3年に父が建てた別荘があり、庭仕事をするのが好きでした。戦前、戦中、疎開、戦後と大いに助けになりました。

住職 それは千葉県一宮ですか。

早苗 大原のすぐ隣町で、三門日在です。

住職 『戦争体験・語り継ぎの記』（法華宗開宗七五〇年記念 妙壽寺刊平成15年発行）にお寄せいただいた文によると、終戦の年3月10日東京大空襲の翌日に紙や何かの焼けた物が一晩かかって大原一帯に落ちてきたというのはすごい話ですね。

早苗 東京方面の空は真っ赤でした。前の晩にB29がゴーと爆音をたてて真上を通っていくのを見ていましたね。翌朝の空は今でも忘れられません。夕焼けと全く違う赤でした。恐ろしい事が起きていたのです。

（次号へつづく）

Profile

早苗靖夫氏

昭和11年(1936)、東京生まれ
豊島師範附属小学校(池袋)
第二師範から学芸大学に名称変更
学芸大学附属中学校(小金井)
明治学院高等学校
明治学院大学中退
奥田商店(質店)勤務
後に家業を継承
天源陶宮術入門
毎日書道展入選8回
現在に至る